

審 査 講 評

1. 審査概要

審査は「平成23年度熊本県堆肥共励会実施要領」に基づいて実施しました。

本年は協議会の運営規模の関係で全体を100点規模として募集を行ったところ、94点の出品がありました。

また、畜種別3部門、作物部門、新人部門に分けて表彰し、総合的に最も評価が高いものを大賞として表彰できるよう厳密に審査を行いました。

(1) 出品堆肥のサンプル収集及び成分分析

各地域振興局の農業普及・振興課を通じて出品堆肥の採取を行い、JA鹿本開発センターにおいて成分分析を実施しました。

(2) 書類、現物審査

参加申込書に記載された堆肥生産情報と成分分析結果を基にして書類審査を実施するとともに「堆肥品質判定基準（熊本県、17年度一部改訂）」に基づき、腐熟度及び品質の判定を実施しました。なお、本年度から発芽試験の方法を変更しています。

(3) 現地審査

書類審査と現物審査の結果から入賞となった出品堆肥について、実際の堆肥の生産状況、施設の運営状況や環境保全への取り組み状況を現地で確認しました。

(4) 特別審査員による評価

利用する側の視点から堆肥の品質評価を行うため堆肥の利用に直接関わる農家、JA営農指導員等を特別審査員として選定し、品質、形状や腐熟度から審査を行いました。

(5) 総合評価

書類、現物審査、成分分析結果、現地審査の結果を総合的に判断して上位入賞堆肥を決定しました。

2. 審査結果

以上の審査結果から各部門の入賞者を以下のように決定しました。

・畜主部門

乳牛	野口牧場（熊本市）
肉牛	阿蘇市堆肥化センター（阿蘇市）
中小家畜	田中幸廣（菊池市）

・作物部門 山鹿市バイオマスセンター（山鹿市）

・新人部門 (株)麻井農場（御船町）

・耕畜連携部門 該当無し

各部門の受賞者について聞き取りおよび必要に応じ現地調査を行い、総合的に検討し、熊本県賞の受賞者を以下のとおり決定しました。

・熊本県賞 田中幸廣（菊池市）

3. 講評

堆肥共励会は今年度15年目に入り、出品点数の制限はありましたが、いずれの畜種に於いても、畜産農家や堆肥生産者の品質向上に対する意識は、とても高く感じられました。

熊本県良質堆肥利用促進協議会では、出品堆肥について独自の熟度判定を行っていますが、完熟堆肥と認定された出品堆肥は依然高い割合を維持しております。特に本年度では、土づくり用として非常に高品質な豚ぷん堆肥が数多く出品されていたことが印象に残りました。

今年度審査を行った中で全体的な傾向、特徴としては次のようなことが感じられました。

- ・個人所有の堆肥化施設とJAや市町村等の共同利用の堆肥化施設の品質の差は今年度もみられず、いずれも高い評価を受けており、県下全体の堆肥品質の底上げが図れていること
- ・適正な水分で、外観・品質の高い堆肥が大部分を占めており、水分調整、通気・切り返し等の基本的な技術が適正に行われていること。特に、昨年指摘されていた部分を改善し、高品質な堆肥を出品されたものが多くみられたこと。

一方、問題点としては次のような課題が残りました。

- ・現物審査などにおいて見た目は高評価であったものの、養分がやや多く、特に塩分、ECともに高い堆肥がみられ、発芽試験の結果が低かったこと
- ・水分調整が適正でないものがあり、乳牛糞では高水分、鶏糞や豚糞では低水分のため発酵が不十分なサンプルがみられたこと

そのなかで、上位入賞された堆肥化施設では、発酵期間中の水分管理や通気・切り返し作業など「基本に忠実」な腐熟化が実施されており、発酵条件が良好な状態に保たれていることが高品質堆肥の生産に寄与しているのではないかと思われました。

現在の国際情勢を鑑みると、飼料をはじめ、肥料・燃料など農業経営に必要な資材は高止まりした状態が続くとみられます。

一方、家畜糞由来の堆肥は、土づくりにも肥料としても利用でき、コストの低減につながる重要な地域資源としてさらに期待が高まっており、耕種サイドでの堆肥の利用は、今後もますます進むものと考えられます。

本共励会の結果をそれぞれの施設及び地域で利用され、技術の改善や工夫を図ることで、良質堆肥の生産と流通に努めていただき、家畜糞堆肥の利用増大と、耕畜連携が順調に進展していくことを希望しまして、講評とします

4. 出品堆肥の品質の概要

(1) コンクールへの出品数の推移

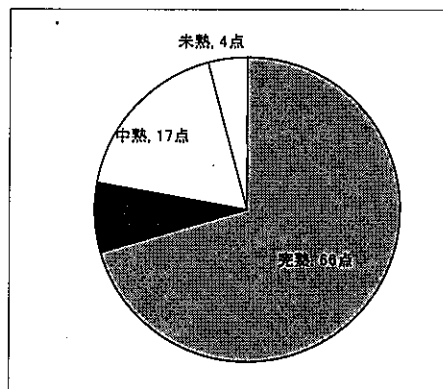
年度	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
出品数	47	50	50	58	64	99	90	130
年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	
出品数	149	126	152	152	126	80	94	

※H22からは協議会の予算の都合で出品点数の大枠を決めている。

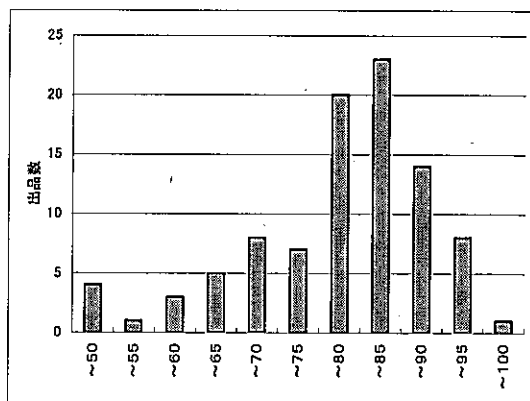
(2) 部門別出品点数(23年度)

畜種	乳牛	肉牛	中小	新人
出品数	33	40	18	18

(3) 腐熟度別判定結果の割合(%)



出品堆肥の熟度割合 (%)



審査得点の分布

(4) 堆きゅう肥の化学分析結果 (現物当たり%)

① 全体の結果 (分析点数: 94)

	水分	pH	EC (1:20)	窒素	りん酸	加里	石灰	苦土	塩素	炭素率
平均値	50.8	8.3	4.0	1.0	1.1	1.8	1.3	0.6	0.7	19.6
最小値	18.19	5.26	0.58	0.32	0.32	0.30	0.41	0.19	0.03	9.73
最大値	74.20	10.49	7.19	2.16	3.37	3.59	4.32	1.53	1.45	35.73
標準偏差	11.1	1.2	1.5	0.4	0.6	0.9	0.9	0.3	0.3	5.6

①畜種別の結果

	水分	pH	EC (1:20)	窒素	りん酸	加里	石灰	苦土	塩素	炭素率
乳牛(n=23)	53.8	8.7	4.2	1.0	1.1	1.8	1.7	0.6	0.5	16.2
肉牛(n=31)	46.5	7.9	4.4	1.1	1.6	1.9	1.1	0.7	0.7	17.9
豚(n=12)	37.1	8.4	4.4	1.6	3.5	1.9	3.1	1.2	0.7	13.0
鶏(n=7)	15.9	9.3	4.2	2.8	5.2	3.4	13.2	1.3	0.8	8.0
畜主混合(n=21)	45.1	8.4	4.0	1.2	1.8	2.1	2.0	0.8	0.6	14.5

(5) 腐熟度別判定結果の割合 (%)

年度	未熟	中熟	完熟
23	4.3	25.5	70.2
22	0.0	43.8	56.3
21	0.8	25.6	73.6
20	1.3	38.8	59.9
19	0.7	40.1	59.2
18	0	43	57
17	3	45	52
16	3	50	47
15	7	72	21
14	3	57	40
13	5	75	20
12	2	77	21
11	16	56	28
10	14	66	20
9	23.0	64.0	13.0

